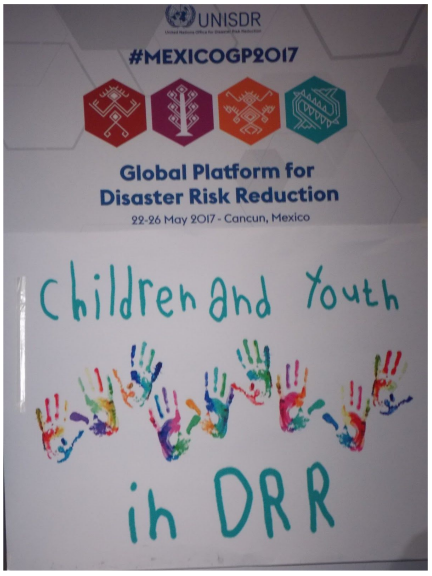
J.Y.P.S.
Japan Youth Platform for Sustainability

持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム（Japan Youth Platform for Sustainability：JYPS）海外活動報告書

記入者	小池 宏隆 / Hirotaka Koike	記入日	2017年6月1日
出席会議名（都市、国）	第5回防災グローバルプラットフォーム(カンクン、メキシコ)	出席期間（準備・フォローアップも含めて）	2017年5月19日 – 28日

1. 第5回防災グローバルプラットフォーム（Global Platform for Disaster Risk Reduction: GPDRR）

概要



GPDRRとは、二年に一度、国連国際防災戦略事務局(UNISDR)のもとで行われる国際会議です。この会議では、防災のための国際的な枠組みの実施に関して意見交換や、パートナーシップ協定、そしてその進捗に関してのレビューが行われます。2015年に仙台防災枠組み（SFDRR)が採択されてから初めてとなる第五回目のGPDRRでは、SFDRRをどう実施していくのか、どのような進捗が見られたのかという点が話し合われました。

SFDRR採択後初とはいえ、フォローアップ会合であるため、政治的関心はあまり高まらないと考えられていましたが、メキシコ大統領をはじめ、ジンバブエ大統領、その他各国の閣僚級の参加がありました。依然として防災というトピックが、国際的な持続可能な開発の文脈において重要な地位を占めているのだということが確認できた会議でした。

参加の感想とアドボカシーの上の引継ぎ事項

パネリストやスピーカーはどの人も質が高く、その意味でそれぞれのセッションは面白みがありました。特に”仙台枠組み、気候変動と2030アジェンダの一貫性”に関する全体会合では、パリ協定との関連性やどのようにして各国がそれぞれの国際的な枠組みを統合した形で実施するための制度を作ることができるかという点が話し合われました。JYPSからも、「地方自治体にとって仙台枠組み以外にもたくさんの枠組

みを実施しなければならないなかで、どのようにしてローカルレベルで一貫性のある実施と報告体制を構築することができるか」という質問をし、Saber Chowdhury氏（議会議員＆列国議会同盟(Inter-Parliamentary Union: IPU)のプレジデント）は、「ローカルレベルにおけるガバナンスの統合とキャパシティービルディングが鍵となる」と返答しました。

ただし、上述のスピーカーの質のよさ等は、まったくGPDRRの質とはリンクしません。GPDRRは本来ならば、仙台枠組みの実施状況についてモニタリングし、各国の取り組みを評価したうえで、次の二年間（次のGPDRR開催までに）どうやって実施速度と効果を上げていくのかという点についてより実質的な議論をするべき場所です。単なる防災に関するシンポジウムとなっていては意味がありません。次のGPDRRに向けて、具体的にどのようにどのようにGPDRRをレビューの場とするのか、UNISDRは根本的なところから議論をステークホルダーとしていく必要があります。

2. GPDRRにおけるユースの参画

Major Groups and Other stakeholdersと子どもと若者のための国連メジャーグループ

国連の持続可能な開発に関わるプロセスにおいて、ステークホルダーの参画は、「メジャーグループとその他のステークホルダーズ（major groups and other stakeholders）」という仕組みを通じて行われます。仙台の第三回国連防災世界会議でもそうでしたが、子どもと若者の場合は、「子どもと若者のための国連メジャーグループ（UN Major Groups for Children and Youth: UNMGCY）」というプラットフォームを通じて参画をすることになります。

UNMGCYとして行った活動は以下の通りです：

- グローバルユースフォーラム（Global Youth Forum）の開催；
- 元国連事務総長防災特別代表であるマルガレータ・ワルストローム氏との会合；
- UNISDRアフリカ事務所との会合；
- ステークホルダーの一員として、国連事務次長との会合；
- 一名の代表者が、ガバナンスに関するワーキング・セッションにて共同議長を務める；
- イグナイトステージにて、ユースエンゲージメントプラットフォームの発表。

3. JYPSメンバーの現地での活動とUN Major Group for Children and Youthへの貢献

今回、小池はUNMGCYのアドボカシー・コーディネーターとして貢献をしました。アドボカシー・コーディネーターの役割としては以下です；

- UNMGCY政策提言書の作成: 最終版- http://bit.do/UNMGCY-PolicyBrief-GPDRR；
- グローバルユースフォーラムでアドボカシー・ワークショップ；

ワークショップでは、アドボカシーの定義とは、なぜアドボカシーをするのかという基礎から始まり、どのようにしてステークホルダーが国連のプロセスに参画しているのか、GPDRRではどのようなことがテーマとして取り上げられ、UNMGCYとして押しているのかをレクチャーしました。そのあとは、実践練習として、会議で人にあった場合の挨拶、その際のコツ、もし相手がこちらの提案を気に入らない場合など、具体的に役立つスキルを練習しました。

- 子どもと若者の事前戦略会議のコーディネート；
- 期間中のアドボカシーの調整と戦略実行；
- イグナイトステージにて、ヤングプロフェッショナルプログラムの発表。

4. その他報告事項

JYPSとして、今後も継続的にDRRのプロセスには関わっていくべきだと思います。今回のGPDRRでも日本から来た参加者の数は断然多く、今後もそうなることは見込まれます。日本のユースとして、そのような場でしっかりとプレゼンスを出していくことは重要な活動だと考えられます。今後はより事前から国内レベルの活動を増やし、ネットワークを強化することによって、GPDRRにおいての活動領域を増やすということが重要です。一つの具体的なアイデアとしては、どこかで日本からのあらゆる派遣者が集まる場をJYPS主導で、外務省や国交省と協力しながらやるのは一つの手です。